

取組状況 (1)

広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知等

要配慮者利用施設説明会【山形県】

～避難確保計画の作成を推進するために～

平成29年の水防法等の改正を受け、浸水想定区域内等の要配慮者利用施設で地域防災計画に掲載された施設を対象に、**避難確保計画の作成が義務化**されました。

県では、避難確保計画の作成を推進するために、**水防法等の改正概要を市町村の担当者に伝えるとともに、推進するための課題について市町村担当者と意見交換を行うために説明会を開催しました。**

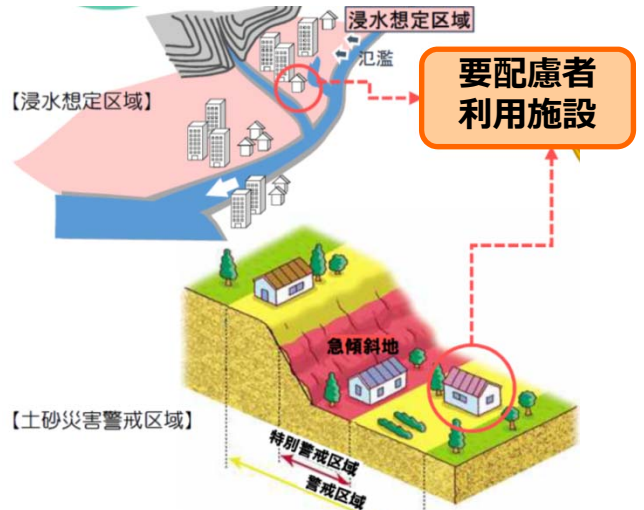
今後、県内4ブロックで出された意見を取りまとめ、課題の共有を行うとともに、課題解決に向けた取組を推進していきます。



村山ブロックの開催状況



置賜ブロックの開催状況



➤ 地域全体の警戒避難体制の充実を図るためにも、都道府県はこれら区域の指定、市町村は地域防災計画への位置付けについて、確実に進めていくことが重要です。

	避難確保計画の策定	計画に基づく避難訓練の実施
現行水防法	努力義務	努力義務
改正後	義務	義務

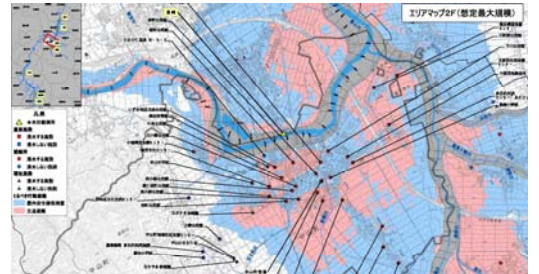
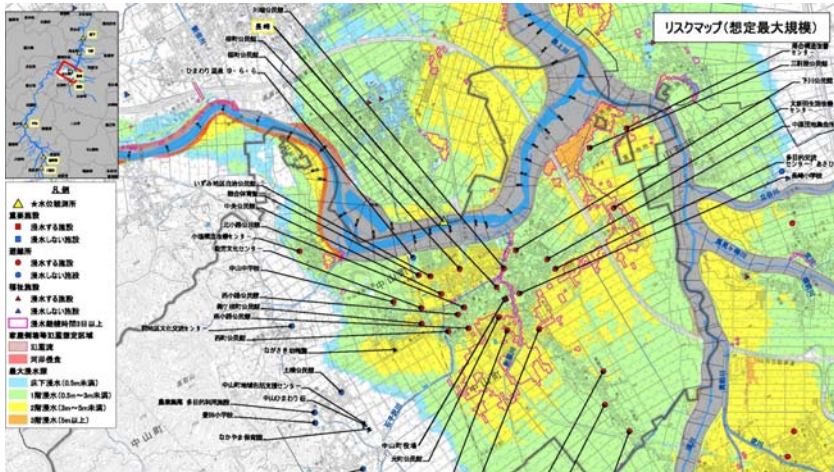
取組状況 (2)

適切な避難勧告の発令に備えた整備

確率規模別水害リスクマップを作成【減災対策協議会】

～大規模水害から命を守るために～

想定される浸水深や浸水が継続する時間、家屋が倒壊する可能性のある区域の情報から、「**早急に立退避難**」が必要となる区域を明確化。市町から発する避難勧告等の避難行動を行う目安として活用していきます。



施設規模別によるべき行動避難をエリアで整理

浸水深	浸水継続時間	
	3日未満 浸水するが 短期間で水が引く区域	3日以上 長期浸水する区域
3階浸水	●立退避難が必要 ●一時的な屋内安全確保措置が困難 →事前の立退避難が必要	●立退避難が必要 ●一時的な屋内安全確保措置や緊急的な待避場所への避難も困難 →事前の立退避難が必要
2階浸水	●建物と比較的早期の復旧が可能	●建物も損傷 →仮設住宅の準備が必要
1階浸水 (床下浸水)	●屋内安全確保措置が可能 →2階に避難	●立退避難が必要 ●一時的な屋内確保措置は可能だが、浸水が長期化し避難生活が困難。 (救助→指定避難所への搬送) →事前の立退避難が必要
床下浸水	●屋内安全確保措置が可能	●屋内安全確保措置が可能

例:浸水継続時間が3日以上、床下浸水(0.5m)以上は立退避難が必要

リスクマップとは、平成29年2月に公表した洪水浸水想定区域図を水害確率規模別に1枚に再編纂したもので、指定避難所や要配慮者施設等の浸水深や立退避難必要エリアを示すことで**早期に立退き避難を行うべき場所**を示した地図になります。

防災教育支援【山形市・減災対策協議会】

～水防災学習プログラムを作成～

山形市立大郷小学校をモデル校とし、平成32年度新学習指導要領での授業開始を見据え、社会科・理科の授業での防災教育の教材として水防災学習プログラムを作成します。(平成30年度末予定)

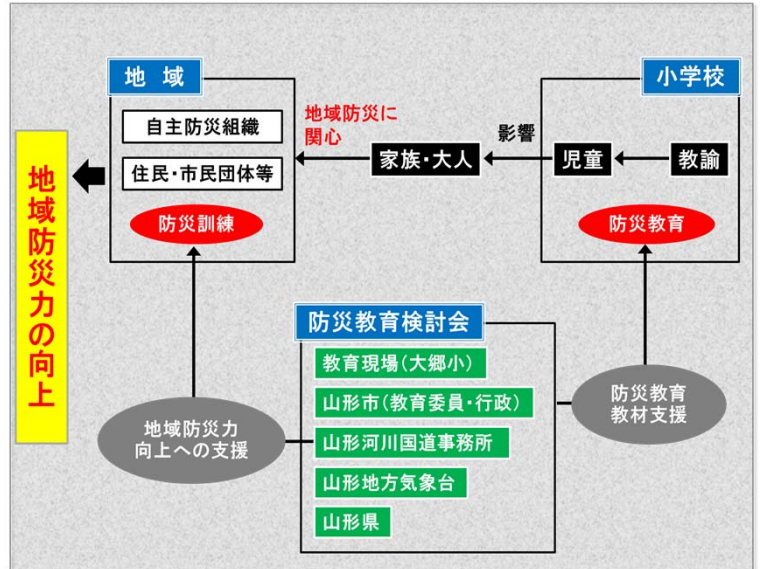
児童への防災教育にとどまらず、児童を通じた地域住民の防災意識向上を目指します。

■ 取組のポイント

- ① 担任の先生が授業
- ② 理科・社会科として授業
- ③ 地元を流れる川を題材



平成30年2月13日 第1回防災教育検討会



先生方必見!

防災教育ポータル



を開設しました

○国土交通省では、平成32年度の小学校新学習指導要領の全面実施等に向け、防災教育に対して様々な支援を実施しています。

○防災教育ポータル

- ・国土交通省の最新の取組を【トピックス】として紹介しています。
- ・様々な機関が作成している防災教育に役立つ資料などを、【教材】【素材】【手引き】【事例】に分類し、掲載しています。

○【動画】洪水から身を守るには～命を守るための3つのポイント～

- ・どんな危険があるのかを調べてお家で話し合おう!
- ・浸水が始まるまえに逃げよう!
- ・安全に逃げる方法をしっておこう!

トピックス
最新の取組

手引き
これから防災教育を始める際の進め方

教材
すぐに使える教材パッケージ

事例
学年別・分野別の防災教育の事例

素材
伝わりやすい写真やイラスト等

リンク集

防災教育ポータル

検索

URL: <http://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/index.html>

編集後記

今年の冬は、県内でも例年のない積雪となりました。これから融雪洪水など例年のない出水が予想されます。新年度の組織体制も変わることから改めて防災体制の確認をして備えて参ります。

減災対策協議会も来年で3年目。当初の目標である5年間の取組が折り返し地点を迎えます。これまでの取組みが実を結んでいくよう、関係機関一丸となって、着実に進めて参りたいと思います。